

前回は、弓道の呼吸について取り上げました。今回は、弓道教本に説かれている現代弓道の目的として掲げられている言葉についてです。

現代の弓道の目的は、「身体を強健にし、礼節・信義・克己・謙譲・大和等々」の精神を養うことが挙げられています。最後の「大和」は「やまと」とは読まず、古くは「たいわ」または「たいか」、近代では「だいわ」と読み、優れた調和・大いなる調和・非常に睦まじいこと、という意味の言葉です。普通の国語辞典には出てこない言葉です。

そして、教本は続けて「人格の陶冶に裨益し、生活内容を豊富にする」ことも現代弓道の目的とされています。人格の「陶冶」とありますが、間違いやすい言葉に「淘汰」があります。

「淘」という字は細かい物を水に入れて揺り動かし、よい物と悪い物を選び分ける意から悪い物を捨てること、「汰」は水で洗って悪い部分を去る意から劣悪なものを選び取り去ること。淘汰は、したがってよい物を取り悪い物を捨てる、という意味です。

では「陶冶」はいかがでしょう。「陶」は、陶器のこと。この意から陶器をつくるように事を行う意となり、そこから教え導くという意味が派生していきました。「冶」は、金属を溶かして器物を鋳ること。「陶冶」は、陶器を焼くことと鋳物を鋳ることから、素質・才能を引き出して育て上げる意となりました。

陶器は、まず陶土をこねることから始めます。粘土の中の空気を出し、土を均質にするために菊練りをします。粘土を少しずつ回転させながら捏ねて菊の花のような練り跡が出来ることから、そう呼ばれています。捏ねにこねるのです。そして、成型の後は窯で数日にわたって高温で焼き上げられます。

古代に大陸から伝わった製鉄の技術は、日本では玉鋼を作る技術となりました。砂鉄を高温で熱して作ります。この玉鋼から日本刀が作られますが、さらに日本刀を形作るために火を入れ叩き延ばすことを繰り返して不純物を出していきます。この日本刀を作る技術から和包丁が生み出され、今はその切れ味が世界の料理人の憧れとなり、わざわざ日本まで和包丁を求めにやってきました。

このように「陶冶」という言葉は、どちらも過酷な条件をクリアして出来上がっていくことを意味していることが分かります。教本にもあるように、優れた人格形成を目指して使われますが、もともとはその人の持って生まれた性質・才能を活かして育て上げていくことです。語源を考えれば、それぞれの素材を洗練して作り上げていくのですから、人格ももともと自らの中にあるものを厳しく鍛え上げていくのです。

弓道は他の武道のような相手との接触がないのが特徴で、敗因は自分の弱さによります。自分の心の中に沸き起こる様々な陰性の感情によって人間は不安定になっていきます。そこで強く求められるのが厳しい自己統制や情緒の安定です。的に向かい、弓に向かい、己に向かうことをひたすら続けて己を知り尽くしていく、そして無欲・無心の心境に少しでも近づくことが、弓道における人格の陶冶ではないでしょうか。